

日時	令和〇年〇月〇日 (〇)	場所	2年〇組 教室
クラス	2年〇組 (〇〇人)	授業者	〇〇 〇〇
科目名	論理国語	単元名	主張をつかむ
使用教材	「人工の自然 科学技術時代の今を生きるために」 (坂村 健)	使用教科書	『新編 論理国語』 大修館書店
教材観	トイレという身近な具体例を導入に用いながら、「科学技術の発展によって人間は退化している」という通説に反論する構成になっている。その際、主張に対して明確な根拠が示されており、生徒が主張と根拠の関係を理解する教材としてふさわしい。		
生徒観	総合型選抜を利用して大学進学を目指す生徒の増加に伴い、小論文の執筆に取り組む生徒も多くなっている。授業を通じて、生徒は問いに対して自らの主張を述べる力を身につけつつあるが、根拠が弱かったり、問いに対して的確な回答ができなかったりする場合も少なくない。 また、調べ学習の場面では、生徒が Copilot や ChatGPT などの AI ツールを活用することが当たり前になってきており、AI の情報を無批判に受け入れてしまう傾向も見られる。		
指導観	本教材を通して、生徒は主張と根拠の関係を理解し、それを踏まえて小論文の作成に取り組む。作成した小論文は、今年度から導入された「表現力強化プロジェクト」を活用して添削を行い、添削後に、生徒自身に「なぜその部分が修正されたのか」という問いを投げかけることで、自らの課題を自覚させ、文章表現力の向上につなげたい。また、添削箇所の中には指摘内容として十分ではないものもあるため、それらを認識することを通じて、AI の情報を鵜呑みにすることの危険性や、情報を精査することの重要性についても実感させたい。		

1 単元の目標

(1) 文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めることができる。

[知識及び技能] (1)ウ

(2) 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることができる。

[思考力, 判断力, 表現力等] A(1)カ

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。

「学びに向かう力, 人間性等」

2 単元の言語活動

生成 AI の添削などを参考にして、自らの小論文の課題を客観的に認識し、記述する。

(関連: [思考力, 判断力, 表現力等] A (2) ウ)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解を深めている。((1)ウ)	①文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。(A(1)カ)	①自ら書いた小論文を推敲したり他者からの助言を参考にしたりする中で、自分の考えが相手に的確に伝わるよう、説明の仕方や表現の仕方を粘り強く考え、自らの学習を調整しようとしている。

4 指導と評価の計画（全6時間）

次	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
第1次 (3時間)	○単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○「人工の自然 科学技術時代の今を生きるために」の内容を理解する。	[知識・技能] ①	「記述の点検」
第2次 (2時間)	○小論文の構成について理解する。 ○テーマについて「筆者の立場」と「自らの主張、根拠」をあげ、ワークシートにまとめる。 ○ワークシートをもとに小論文を書く。 ○小論文を教育用生成AIに読み込ませる。	[知識・技能] ① [思考・判断・表現] ①	「記述の分析」
第3次 (1時間)	○教育用生成AIの指摘箇所を確認する。 ○指摘理由に関してペアで議論する。 ○AIからの指摘理由を確認する。 ○議論やAIの意見をもとに自らの課題を認識する。 ○単元の振り返りを通して自らの学習を省察する。	[思考・判断・表現] ① [主体的に学習に取り組む態度] ①	「記述の分析」

【単元の流れ】

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○単元の目標や進め方を確認し、学習の見通しをもつ。 ○1・2段落の内容を通して、筆者の主張には根拠が示されていることを理解する。	・筆者の主張は通説とは異なることを注意しながら指導する。 ・文章中から筆者の主張と根拠を見つけ、根拠の役割について意識させる。 ・根拠の妥当性を意識させる。	[知識・技能] ① 「記述の点検」 ワークシート ・記載内容を点検する。
2	○3段落の内容を確認する。	・具体例に着目しながら、筆者の主張を読み取らせる。	[知識・技能] ① 「記述の点検」 ワークシート

			・記載内容を点検する。
3	○4段落の内容を確認する。	・筆者の問題提起に着目させ、生徒自身にも考えさせる。	[知識・技能] ① 「記述の点検」 ワークシート ・記載内容を点検する。
4	○教科書を参考にしながら、小論文の基本を押さえる。 (ワークシート「小論文を書いてみよう」) ○小論文課題のテーマについて「筆者の立場」、「自らの主張と根拠」をワークシートに書きだす。	・メタモジでプリントを配布し、小論文の基本を押さえさせる。 ・筆者の意見を踏まえる際に要点だけ押さえさせる。 ・主張や根拠を書く際、タブレットを用いた調べ学習を行わせないが参考資料として、情報の教科書を使用してもよいこととする。	[知識・技能] ① [思考・判断・表現] ① 「記述の分析」 ワークシート ・記載内容を点検する。
5	○作成したワークシートをもとに小論文を書く。 ○作成した小論文を生成 AI に提出する。	・小論文を書く際には、「双括型」で書くよう指導する。 ・ワークシートを参考にさせる。 ・小論文を書き上げる際に誤字や文末表現などの初歩的なミスがなくなるように声をかける。	[知識・技能] ① [思考・判断・表現] ① 「記述の分析」 ワークシート ・記載内容を点検する。
6 (本時)	○ワークシート上で生成 AI の指摘の有無を確認する。 (ワークシート「小論文を推敲してみよう」) ○「指摘あり」の項目から一つ選び、添削された理由を考える。 ○ペアで互いの小論文を読み、添削理由について交流をする。	・添削理由を検討するにあたり、深められる項目を選ばせる。 ・生成 AI からの「指摘あり」がない生徒に関しては、別の「指摘あり」の生徒の小論文の添削理由を考えられるよう、事前にペアを組ませる。 ・互いの小論文を読ませ、ペアからの意見を取り入れられるようにする。	[思考・判断・表現] ① [主体的に学習に取り組む態度] ① 「記述の分析」 ワークシート ・記載内容を分析する。

	<p>○AI からの添削理由を確認する。</p> <p>○自己の課題について認識する。</p> <p>○情報を鵜呑みにすることの危険性について確認する。</p>	<p>・さまざまな意見の中から共通しているところを意識させ、自己課題を考えさせる。</p> <p>・AI の添削ミスなどを紹介し、生徒に危機意識を持たせる。</p>	
--	--	--	--

≪本授業における評価の実際≫

5 観点別学習状況の評価の進め方

「論理国語」の「内容」の〔思考力・判断力・表現力等〕「A 書くこと」に関する指導については、「内容の取扱い」(1)アに「50～60 単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導すること」と示されている。このことを踏まえ、本単元では、「A 書くこと」に関する資質・能力を目標として掲げ、単元のまとまりの中でその育成を重点的に図る指導と評価の計画を示している。

(1) [知識・技能] の評価

[知識・技能]①の「文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている」状況を、「小論文課題に関する筆者の立場と自らの主張、根拠を自ら考え、主張に客観性をもたせようとしている」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、ワークシートや小論文の記述を点検し評価する。

ワークシートに記述できていない状況を C と捉え、教員から助言をしたり、教科書などの参考資料を用いるよう促したりする。

(2) [思考・判断・表現] の評価

[思考・判断・表現]①の「文章の構成や展開、表現の仕方などについて、自分の主張が的確に伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直ししようとしている」状況を、「生成 AI の指摘理由やペアとの交流を通じて、自身の小論文の課題を認識しようとしている」姿（「おおむね満足できる状況」(B)）と捉え、ワークシートを点検し評価をする。

小論文を書くことができていない状況を C と捉え、活動で出てきた意見の中で共通点や特に説得力のあったものを見つけるよう助言する。

(3) [主体的に学習に取り組む態度] の評価

[主体的に学習に取り組む態度]①の「自ら書いた小論文を推敲したり他者からの助言を参考にしたりする中で自分の考えが相手に的確に伝わるよう、説明の仕方や表現の仕方を粘り強く考え、自らの学習を調整しようとしている」状況を、「自らの小論文の課題を授業内の活動を通して認識しようとする」姿（「おおむね満足できる」状況(B)）と捉え、ワークシートの記述、自己評価を分析し評価する。

本単元を基に多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり根拠や論拠の吟味を重ねたりできていない状況を C と捉え、ワークシートにまとめた内容を踏まえて書くように促す。

6 学習指導案(6時間目/全6時間)

本時の目標：ア. 生成AIからの添削などを踏まえて、自分の文章の課題を捉え直すことができる。

[思考力, 判断力, 表現力等] A (1) カ

言語活動：生成AIの添削などを参考にして、自らの小論文の課題を客観的に認識し、記述する。

本時の展開：

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入 5分	<input type="checkbox"/> 前時までの復習 <input type="checkbox"/> 本時の目標を示す。	<ul style="list-style-type: none"> ・小論文課題を今一度、確認する。 ・本時に行うことを把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・添削理由をもとに自らの課題を認識することが目的であることを意識させる。
展開① 15分	<input type="checkbox"/> 表現力強化プロジェクトからの指摘の有無のみ確認する。 <input type="checkbox"/> 「指摘あり」の項目から一つ選び、添削された理由を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「指摘あり」となった項目から、自分で検討してみたいものを選ぶ。 ・作成した小論文を客観的な目線で見直し、指摘された理由に関して検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・添削理由を検討するにあたり、深められる項目を選ばせる。 ・「指摘あり」がない生徒に関しては、別の「指摘あり」の生徒の小論文の添削理由を考えられるよう、事前にペアを組ませる。
展開② 10分	<input type="checkbox"/> ペア同士でそれぞれの小論文を読み合う。 <input type="checkbox"/> 互いの小論文の添削理由を議論する。	<ul style="list-style-type: none"> ・相手にどの観点で小論文を読んでほしいかを伝える。 ・お互いに小論文を読み合う時間をとる。 ・互いに相手の小論文の指摘理由について議論しあい、ペアからの意見を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手との交流に備え、意見や疑問点などを探すように意識させる。 ・自身の課題を認識する材料となるよう、交流の内容をメモさせる。

<p>展開③ 15分</p>	<p>◎AI による添削理由を 確認する。</p> <p>□自己の課題について 認識する。</p>	<p>・自らが検討した添削理由、ペアとの交流、AI からの添削理由、を踏まえ、自己の課題を認識し、記述する。</p>	<p>【目標Aに対する評価規準と評価方法】</p> <p>規準：生成 AI からの添削などを踏まえ、自らの文章の課題を認識している。</p> <p>方法：「記述の点検」（モニタリング、机間指導）</p> <p>[状況 C に対する手立て]</p> <p>・三つの活動で出てきたものの中で共通点や特に説得力のあったものを見つけるよう、助言する。</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>□AI の危険性について 確認する。</p> <p>□本時の振り返り</p>	<p>・実際に生成 AI の指摘に不備があった箇所や AI を用いたことによる弊害などを挙げる。</p> <p>・今後、小論文を書くときに意識することをそれぞれ確認する。</p>	